



昔、男、初冠して、平城の京、春日の里に、

しるよしして、狩りにいにけり。

その里に、①いとなまめいたる女はらから住みけり。

この男、垣間見てけり。

思ほえず、ふるさとにいとはしたなくて

ありければ、②心地惑ひにけり。

男の着たりける狩衣の裾を切りて、

③歌を書きてやる。

〈語句〉

- 領る…
- よし…
- なまめい(「なまめく」)…
- はらから…
- 垣間見(「垣間見る」)…
- ふるさと…
- はしたなく(「はしたなし」)…
- 惑ひ(「惑ふ」)…
- やる…

〈文法〉

- いに(「往ぬ」)…
- 着(「着る」)…

○「初冠」とはどういうことか

○傍線部①を現代語訳せよ。

○傍線部②「心地惑ひにけり」なのはどうしてか、説明せよ。

○傍線部③とは何を意味する行為か、説明せよ。

その男、しのぶずりの狩衣をなむ着たりける。

〈語句〉

おもしろき(「おもしろし」) …

そめ(『そむ』) …

心ばへ …

いちはやき(「いちはやし」) …

みやび …

A 春日野の若紫のすり衣

しのぶの乱れ限り知られず

係り結び …

〈文法〉

となむ、追ひつきて言ひやりける。

〈和歌の修辞法〉

掛詞 …

序詞 …

① ついでおもしろきことともや思ひけむ。

○ A の和歌の修辞法について指摘せよ。

序詞 …

B みちのくのしのぶもぢずりたれゆゑに

掛詞 …

乱れそめにし我ならなくに

○ A の和歌「若紫」は何を例えたものか？

といふ歌の心ばへなり。

○ A の和歌を現代語訳せよ。

② 昔人は、かくいちはやき

みやびをなむしける。

Answer box for question 2, indicated by a dashed border.

○傍線部①「ついでおもしろきこと」とはどういうことか？

○Bの和歌の修辞法について指摘せよ。

序詞：

掛詞：

○Bの和歌を現代語訳せよ。

○傍線部②「かくいちはやきみやび」とはどんなことか？

○傍線部②には作者のどんな思いが表れているか？